

## 報 告 書

2016年11月6日

望月 厚司 様

議員名 佐藤 成子

下記のとおり、政務活動費による視察を実施したので、ご報告します。

1 日 時	2016年10月27日～28日	
2 視 察 先	(1) 都 市 名 視 察 先 施 設 等	熊本市・益城町等被災した地域
	(2) 対 応 者	熊本 大西一史市長・熊本市議会議員・大分市議会議員 熊本県 有浦危機管理防災企画監 益城町職員・合志市議会議員
3 目 的	くるくると言われている東海・東南海地震。日本のあちこちで発災している中、何故かここを素通りしているが、常に意識し、万全の体制をつくっておく必要があると考えている。まさかの熊本市。あの熊本城が散々な状態になっているとの事、益城町はそれ以上の被災状況との報道。まずは現地に赴きその状況を視察し現地の方々のお話を伺う。	
4 内 容	<p><b>がんばろう熊本！「LM熊本勉強会・被災地視察～災害時における議会の役割と自助・共助・公助のあり方を学ぶ～」大西一史熊本市長</b></p> <p><b>地震の概要</b>①震度7が立て続けて2回発生（観測史上初）②一連の地震で震度6弱以上の地震が7回発生（観測史上初）③余震回数累計4000回以上</p> <p><b>被害状況</b>①人的被害 死者53人被災者648人（10/13現在）②住宅被害（罹災証明書交付件数）全壊5,508棟・大規模半壊8,474棟・半壊31,225棟・一部半壊61,215棟</p> <p><b>棟熊本市震災復興計画</b>①一人一人の暮らしを支えるプロジェクト②市民の命を守る「熊本市民病院」再生プロジェクト③熊本のシンボル「熊本城」の復旧プロジェクト④新たな熊本の経済成長をけん引するプロジェクト⑤震災の記憶を次世代へつなぐプロジェクト</p> <p><b>課題①</b>災害に対する危機管理意識の低さ⇒意識していなかった63%《自助》行政から支援が届くまで最低3日分の食料の備蓄必要</p> <p><b>課題②</b>迅速な情報発信⇒行政からの広報受信者1・2%《公助》既存の情報発信の手段に加えて、SNS等の活用した災害情報発信が必要</p> <p><b>課題③</b>防災時の地域の繋がり⇒自主防災クラブを知らない人76・4%《共助》自主防災倶楽部への加入促進《公助》自主防災クラブの活動の周知活動の強化</p> <p><b>課題④</b>指定避難所の認知度の低さ</p>	

⇒知らなかった（18歳～34歳が最多）54・8%《公助》若者の認知度向上のためHPや携帯メール等で発信するなどこれからの次世代を取り込む仕組みが必要課題⑤指定以外の避難所の管理体制⇒指定避難所避難者 36・6%・車中が 39・2%《公助》指定避難所以外の施設や車中への避難者の対応が必要課題⑥市民による避難所運営《共助》お互い様の精神で、出来る事で避難所運営に参加災害に対する危機管理意識の変化飲料水・食糧の備蓄をしている震災前 34・2%震災後 80・6%備蓄していない震災前 63・3%震災後 14%震災後、地域や校区で支え合い・助け合い地域による地震体験・教訓の継承九州市長会・防災部会の設置を行った。

『大西一史市長の振り返って』多くの尊い命と財産が失われ今なお日常生活を取り戻すことが困難な市民が多数おられる現実に直面し、復旧復興に向けた責任の重さ大きさを日々痛感している。一方で、他人を思いやる心を忘れず地域や校区で支え合いや助け合いながら、市民自らが、まちを創り、育てていくという地域の絆・地域力の重要性を再認識させられた。また、全職員が、市民の中に飛び込み、対話を重ねた経験教訓を未来への糧として、市民、地域、行政の心を一つにして安全安心な熊本の再生と創造に取り込むことが必要だと思っている。⇒発災当初から 1 か月。不眠不休で市役所に泊まり込み対応に当たった。

#### 熊本地震対応～その真実と教訓～熊本県危機管理防災企画監

防災の3段階⇒予防・応急対応・復旧（未然に防止し、被害の拡大を防ぎ、復旧を図る⇔防災の本質は予防にある熊本地震対応の良かった点①分掌（役割分担）が明確であった②オペレーションで、自衛隊方式を取り入れていた③職員用資材や様式の創意工夫で、不慣れな職員が迷わず処理できた④熊本県庁危機管理転出者復帰制度の存在⑤クロノロジー（時系列記録）作成の徹底 改善を要する点①災害発生御における行政事務訓練が必要②プッシュ型物資配送における、セット・パック・リュック方式の採用③避難所位置の見直し・住民リーダーによる運営◆他人ごとにしなない◆思い込みを捨てる

広島土砂災害から学ぶ行政は住民を災いなき地におき、災いの前に逃す。住民は、疑わしき察し、災いの前に逃れる⇒予防に勝る対策なし《予防的避難・移転の促進》

『災害時等非常事態における議会の行動指針』について定めている 34%

5 成果・市政への反映等

予防に勝るものはないという危機管理企画監の話は興味のある切り口だったが、地震の予知については、何度も研修などで聞いてはいるが、なかなか難しとの事だ。これさえ出来れば災害規模も抑えられることになると思う、この分野の研究を全国に先駆けて静岡市としてやってほしい。又、防災訓練の形骸化や備蓄意識の風化も言われているし、中学生や高校生の参加は学校を通じて行われているが、地域の一人住まいの若者の参加をいかに多くしていけるかがカギになると思う。そのような仕組みづくりの指導が必要だ。何はともあれ、あの惨禍の現場、百聞は一見に如かず。備えあ

れば憂いなしなのだと痛感した。